

## 未来を拓く柔軟な科学的思考力を育む「協同的探究学習」

### －各教科の授業で非定型な課題の本質に迫る－

主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校

「協同的探究学習」は、児童・生徒が自分なりの方法で思考プロセスを表現し、教科の内容を深く理解することのできる、小・中・高各教科や課題研究で実践可能な学習法です。また、仲間と話し合うことで、児童・生徒が主体的に授業に関わろうとし、お互いの考えを聞くことで仲間を認め合うことのできる授業です。

2025 年度は、以下の日程で「協同的探究学習」の研究会を予定しています。

研究会	日時	テーマ・教科・科目（予定）
第1回（オンライン）	7月25日（金）	多様な事象から規則性を見だし、その根拠を自分の言葉や図式で説明する力を高める「協同的探究学習」 数学科（中学校）、理科（中学校、高等学校）
第2回（オンライン）	11月29日（土）	多様な思考を関連づけて自分の考えを再構築する「協同的探究学習」 英語科（中学校）、国語科（中学校）の実践紹介・検討 保健体育科（中学校、高等学校）の実践
SSH 成果発表会（対面）	2月6日（金）	事象の本質を追究し、実践に生きる豊かな思考力を育む －「課題研究 STEAM」を支え教科の学びをつなぐ 「協同的探究学習」－ 【中学校】英語科、技術科、保健体育科、理科、数学科、 社会科の公開授業・検討会 【高等学校】国語科、データサイエンス、アカデミック ライティング、課題研究 STEAM+の公開授業・検討会

第1回の研究会では、「多様な事象から規則性を見だし、その根拠を自分の言葉や図式で説明する力を高める「協同的探究学習」」をテーマとして数学科、理科の実践紹介・検討を行います。協同的探究学習の趣旨や理念を理解した上で実践している公立中学校の実践紹介も行います。

実際に行われた協同的探究学習の授業では、自分の見つけた規則性が他者に認められ、他者に活かされて共有する楽しさが生まれます。また、自分や他者の見つけたそれぞれの規則性をつなげ、クラス全体で包括的な原理や本質の探究が進みます。そのような授業を実現する課題設定のポイントと工夫や、それに対して生徒がどのような思考をしたかについて紹介します。

また、ワークシートを用いた思考力・判断力・表現力の評価（A 基準、B 基準）について生徒の記述をもとに検討します。

第1回（オンライン）

多様な事象から規則性を見だし、

その根拠を自分の言葉や図式で説明する力を高める「協同的探究学習」

2025年7月25日（金）13:00～17:00

第1部 本日の研究会の趣旨説明	13:00～13:10
藤村宣之先生（東京大学）の講演（50分）	13:10～14:00
第2部 数学科（中学校）の実践紹介・検討	14:10～15:30
第3部 理科（中学校、高等学校）の実践紹介・検討	15:40～17:00

- 本校と兵庫県加古川市内の公立中学校の実践紹介を予定しています。
- 各実践紹介・検討後に藤村先生からのご助言をいただきます。
- 第3部終了後に協同的探究学習などに関する質疑応答の時間も設ける予定です。
- 部分参加も可能です。
- 様々な教科に通じる授業づくりのポイントや工夫などを紹介します。数学科、理科以外の先生方も是非ご参加ください。

対象者	小学校・中学校・高等学校・大学の教員（非常勤講師を含む）、 教育委員会関係者、教員志望・研究者志望の大学生および大学院生
形態	オンライン（Zoom）
会費	無料
申し込み方法	7月23日（水）までに、本校ホームページの申し込みフォーム （ <a href="https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp">https://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp</a> ）、または、右のQRコード を読み取りお申し込みください。



講演 一人ひとりの「わかる学力」と「ウェルビーイング」を育む協同的探究学習

講師 東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生

京都大学大学院教育学研究科において博士（教育学）を取得。名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授などを経て現職。専門は、教育心理学、発達心理学。カーネギーメロン大学（アメリカ合衆国）客員研究員、日本学術会議連携会員などを務めてきている。

著書	『「わかる」はどう深まるか—子どもの思考の発達と協同的探究学習—』 （単著、ちとせプレス、2025年） 『新しい時代の教育方法（第3版）』（共著、有斐閣、2024年） 『国際的に見る教育のイノベーション—日本の学校の未来を俯瞰する—』 （共著、勁草書房、2023年） 『発達心理学—周りの世界とかわりながら人はいかに育つか—（第2版）』 （編著、ミネルヴァ書房、2019年） 『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』 （藤村宣之・橋草菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年） 『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』 （単著、有斐閣、2012年） 『協同と探究で「学び」が変わる—個別的・ドリルの学習だけでは育たない力—』 （分担執筆、名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、学事出版、2013年）。他多数
----	--

## 第1部 講演 13:10~14:00

### 講師の紹介

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生

2025年度 第1回

### <講演タイトル>

協同的探究学習を通じた社会生活に生きる「わかる学力」とウェルビーイングの育成

### 授業活性化

生徒が自分でやろうとする

### <講演概要>

国際比較調査などの結果を分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（解き方などが一つに定まる定型的な課題を解決する知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（多様な考えが可能な非定型的な課題

## 第1部 講演 13:10~14:00

### 講師の紹介

東京大学大学院教育学研究科教授 藤村宣之先生

2024年度 第1回

#### <講演タイトル>

協同的探究学習を通じた社会生活に生きる「わかる学力」とウェルビーイングの育成

#### 授業活性化

生徒が自分でやろうとする

#### <講演概要>

国際比較調査などの結果を分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（解き方などが一つに定まる定型的な課題を解決する知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（多様な考えが可能な非定型的な課題に対する思考の構成・表現や深い理解）の水準は相対的に低いことが見えてくる。最近、結果が公開されたPISA2022年調査でも、日本の生徒には、多様な解法や説明が可能な非定型問題に対する判断の理由の説明に課題があること、実生活に関わる問題を数学と関連づけて解決したり実社会の問題の中に数学的な側面を見いだしたりすることに対する自己効力感が低いことなどが示されており、今後の社会生活に活かしうる「わかる学力」の向上が国際的にも急務となっている。これからの時代に向けて国際的にも重視されている「わかる学力」や、自己肯定感・他者理解・学習観などの学びに向かう力・人間性、そして子どもたちのウェルビーイング（幸福度）を育むには、探究と協同（他者とともに学ぶこと）を通じて子どもたちが考えをそれぞれに構成して認めあい、そしてそれらの多様な考えを関連づけて「深い学び」を実現する授業が必要である。そのような背景から小・中・高の先生方と各教科等の授業を通じて開発と実践を進めてきている「協同的探究学習」について、子どもたちの様々な発想を引き出し、関連づける非定型の発問（思考の多様性を引き出し、相互に関連づけて新たな価値を創出する発問）の構成を中心に提案する。さらに、個々の児童・生徒の記述内容などを分析して「わかる学力」（非定型問題に対する思考の構成・表現や、本質に向かう概念的理解の深まり）を評価する方法について提案を行いたい。

特に今回は、数学科、家庭科、データサイエンスの実践事例をもとに、授業実践と理論のつながりについても考察を行う。

## 2024年度 第2回

### <講演タイトル>

子どもの「わかる学力」とともに「ウェルビーイング」を高める教育  
—生徒自身が多様な思考を分析し豊かな思考を育む協同的探究学習—

### <講演概要>

国際比較調査などの結果を分析すると、日本の児童・生徒の「できる学力」（解き方などが一つに定まる定型的な課題を解決する知識・技能）の水準は高いが、「わかる学力」（多様な考えが可能な非定型的な課題に対する思考の構成・表現や深い理解）の水準は相対的に低いことが見えてくる。最近、結果が公開されたPISA2022年調査などでも、日本の生徒には、多様な解法や説明が可能な非定型問題に対する判断の理由の説明に課題があること、実生活に関わる問題を各教科の学習内容と関連づけて考えたり解決したりすることに対する自己効力感が低いことなどが示されており、今後の社会生活に活かす「わかる学力」の向上が国際的にみても急務となっている。これからの時代に向けて国際的にも重視されている「わかる学力」や、自己肯定感・他者理解・学習観などの学びに向かう力・人間性、そして子どもたちのウェルビーイング（幸福度）を育むには、非定型問題に対する探究と協同（他者とともに学ぶこと）を通じて、子どもたちがそれぞれの考えやその関係性を分析し、本質を追究して豊かな思考（思考の広がりや深まり）を生み出す授業が必要である。そのような背景から小・中・高の先生方と各教科等の授業を通じて開発と実践を進めてきている「協同的探究学習」について、子どもたちの思考の多様性を引き出し、相互に関連づけて思考の精緻化・再構造化を導く発問や協同過程の構成を中心に提案する。さらに、個々の児童・生徒の記述内容などを分析して「わかる学力」（非定型問題に対する思考の構成・表現や、本質に向かう概念的理解の深まり）を評価する方法について提案を行いたい。

特に今回は、国語科、社会科・地歴公民科の実践事例をもとに、授業実践と理論のつながりについても考察を行う。

## <プロフィール>

京都大学大学院教育学研究科において博士（教育学）を取得。名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授などを経て現職。専門は、教育心理学、発達心理学。カーネギーメロン大学（アメリカ合衆国）客員研究員、日本学術会議連携会員などを務めてきている。

## <著 書>

- ・『協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—』  
（藤村宣之・橘春菜・名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、ミネルヴァ書房、2018年）
- ・『数学的・科学的リテラシーの心理学—子どもの学力はどう高まるか—』（単著、有斐閣、2012年）
- ・『協同と探究で「学び」が変わる—個別的・ドリルの学習だけでは育たない力—』  
（分担執筆、名古屋大学教育学部附属中・高等学校編著、学事出版、2013年） 他多数

## 第2部 数学科の実践紹介・検討 14:10~15:30

名古屋大学教育学部附属中・高等学校の数学科（中学1年生：平面図形）の実践紹介・検討を行います。ワークシートを用いた思考力、判断力、表現力の評価なども紹介します。また、兵庫県加古川市内の公立中学校の数学科の実践紹介も予定しています。

各実践紹介後に藤村先生からのご助言をいただきます。

## 第3部 理科の実践紹介・検討 15:40~17:00

名古屋大学教育学部附属中・高等学校の理科（高校1年生 物理基礎：波動）の実践紹介・検討を行います。ワークシートを用いた思考力、判断力、表現力の評価なども紹介します。また、兵庫県加古川市内の公立中学校の理科の実践紹介も予定しています。

実践紹介後に藤村先生からのご助言をいただきます。

お問い合わせ：

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学教育学部附属中・高等学校 研究部長 大羽 徹

E-Mail : ohba@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

電話番号：052-789-2680（職員室）